

令和 6 年度 心の教育充実会議（生徒指導連絡協議会）

6 月 11 日(火)、中丹管内の小・中学校、府立高等学校の生徒指導担当教員を対象に、下記の(1)～(3)を会議の目的として心の教育充実会議（生徒指導連絡協議会）を開催いたしました。

- (1) 中丹管内における生徒指導の状況と課題を把握する。
- (2) 児童生徒理解（アセスメント）に基づいた適切な指導・支援について理解を深める。
- (3) 問題行動や不登校等生徒指導上の諸課題の未然防止と適切な対応に向けて、生徒指導担当教員として求められる役割や各校の取組について交流・協議することで、自校の生徒指導体制の充実につなげる。

課題提起 「児童生徒理解」、「アセスメント(BPS モデル)」、「チーム支援」について生徒指導提要进行を確認し、特に多様な背景を持つ児童生徒への指導の充実に向けて、特別支援教育の視点が重要であることを提起しました。

講演 「特別支援教育と生徒指導～支援を要する児童生徒の理解と具体的な指導～」
国立舞鶴工業高等専門学校 修学支援室 特命教授 後野文雄 様
児童生徒の課題や状態、手立てを特別支援教育の視点で捉えるポイントやそれぞれの発達障害の特徴とより良い支援方法など、具体的事例を基にお話いただき、多くの学びや気づきがありました。

研究協議 講演を聴いての気づきや感想を交流した後、「自校の気になる生徒について、適切な見立てから手立てにつなげるために取り組むことを具体的に考える」という協議の柱に沿って、学びを深めました。

参加者の振り返り

- ◇生徒指導の充実に向けて、医療的な側面からのアプローチが手薄になっていることに気が付いた。心理面からのアプローチと同様に、医療的なアプローチを積極的に行いたい。そして、支援の行きつく先は「合理的配慮」であると感じたので学校全体で合理的配慮について協議する機会を持ちたい。
- ◇自校における不登校児童のアセスメントを再度見直したい。特別支援の視点を大切に、子どもの困り感や特性を的確に見取り、対応していく。夏季の校内研等では、特別支援教育部と連携し、特別支援教育と不登校とのつながりについて学ぶ機会を設けたい。



令和 6 年度 学力充実会議

6 月 28 日(金)、中丹教育局重点取組「確かな学力の育成」にかかわって、「**授業者だけではなく、参観している教員の授業力向上につながる授業研究会をデザインする**」という目標のもと、管内小中学校の研究主任、学力充実担当教員を対象に実施しました。

課題提起

◎ 授業研究会を教職員全員の授業力向上につながるものとしなければならないのでは？

基礎・基本的な知識・技能の定着が不十分、中位層を上位層へと引き上げる視点・意識の不足

福知山市立夜久野中学校 中場 圭佑 教諭

「学園基礎力」が授業を通して、どれだけ育まれているのかを**児童生徒の実態から協議**することで教科や世代の垣根を越えた組織的な授業改善にかかわる発表



実践発表

舞鶴市立城南中学校 四方 浩志 教諭

「教育のユニバーサルデザイン」= **生徒一人ひとりを中心に置き**、府学力・学習状況調査結果分析から考えた手立ての検証を授業参観の視点として行った授業研究会にかかわる発表



キーワード：児童生徒を中心に置き、児童生徒の実態から授業を振り返る

ふ参
り観
か
え
の
り



- ◇2校の実践発表を聞いて、どちらも目の前にいる子どもを中心に置いて、児童生徒がどう学んだのかを大切にされているということがわかった。その積み重ねが子ども一人ひとりを理解する力が高まることにつながると感じた。授業作りをする際、その課題設定でいいのか、評価規準は適切であるか等考えることが、より良い授業作りに結び付いていくと感じた。
- ◇授業研究会では、子どもがどのように学んでいるのかを見取り、事後研では子どもがどのように学んでいたか、学びからはずれたのはなぜかを協議する。また、事前研では、子どもの学ぶ姿をデザインするイメージを大切に協議を進めたい。